

平成25年度事業報告書

I	事業の実施概要	1
(1)	助成事業	1
(2)	表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～	3
(3)	国際交流活動	4
(4)	制作者フォーラムの開催	4
(5)	設立40周年記念事業	5
(6)	定期刊行物の刊行等	5
(7)	ホームページの運営	5
(8)	個人情報の保護	6
(9)	資産運用検討委員会	6
II	処務の概要	7
(1)	役員、評議員等に関する事項	7
(2)	理事会および評議員会に関する事項	9
III	付属明細書（資料1～4）	10

平成25年度事業報告書

I 事業の実施概要

放送はデジタル化の進展や通信との連携が急速に進むなか、新たな可能性や試みを探る動きが一段と活発となってきている。

この様な中、平成26年2月放送文化基金は設立40周年を迎えた。

平成25年度放送文化基金は、放送文化の発展・向上に寄与すべく、助成事業、表彰事業、制作者支援活動事業の3本柱を中心に、新たに若手研究者への助成奨励の実施や事業のweb化等「40周年記念事業」を加え、計画した事業を実施した。

また、財政面では、経常収益が急速な円安の進行による債券運用収入の増加や弁済金繰り上げ返済等により予算に比べ大幅増加となる一方、経常費用は人件費を中心に支出削減等が進んだことから、収支差額は1億1200万円余りの黒字となった。

(1) 助成事業

ア 平成25年度助成

平成25年度助成要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の2分野を対象に公募を行い、平成26年1月に其々開催した助成審査委員会の審査を経て、理事会で42件 5,545万円の助成を決定した。

(助成対象一覧 資料1)

申請および採択結果は、次の通りである。

(単位 万円)

区 分	申 請		採 択	
	件 数	金 額	件 数	金 額
技術開発	23	5,834	12	2,500
人文社会・文化	80	12,342	30	3,045
合 計	103	18,176	42	5,545

「技術開発」では、4K、8Kといった高精細・高画質化に向けた研究や、「失語症者向けニュース字幕要約手法に関する研究開発」「テレビCMへ付与された字幕のアイトラッキングによる評価」など放送弱者向けの“人にやさしい放送”などが採択された。また、生理、心理に関する

基礎的な研究として、脳の知覚特性を解明することにより、超大型・超高精細であるかのように感じさせる技術に繋がる研究や、視覚疲労のない快適な3次元表示装置の開発に繋がる研究などが採択された。

「人文社会・文化」は、災害や原発事故と放送に関する研究が多く、その中から「巨大災害とコミュニティラジオ放送」、原発事故報道のデータベースを構築する「効果的な原子力発電所の事故対応に貢献する“原発事故対応モデル”の構築」などが採択された。

また、中国やバングラデシュなど海外からの申請に加えて「世界公共放送研究者会議 東京大会への海外研究者招聘」など国際関係に関する研究や事業が採択された。

なお、今年度は若手研究者への助成奨励として助成金 200 万円を増額し募集段階で若手研究者からの申請を呼びかけた結果、大学院生や非常勤講師など若手研究者からの応募が増加した。

助成金贈呈式は、平成26年3月7日に「40周年記念研究報告会、目録贈呈式、懇親会」の3部構成で実施した。

40周年記念研究報告会では、「3.11とメディアのこれから」をテーマに、東日本大震災後に助成申請された災害とメディアに関連する研究と放送文化基金が委託研究した研究のうち、3つのプロジェクト（日本災害情報学会デジタル放送研究会代表 藤吉洋一郎氏、法政大学社会学部教授 藤田真文氏、東京大学都市基盤安全工学国際研究センター長 目黒公郎氏）から研究成果が報告された。

続いて研究報告の3名に加え、震災報道に携わった福島中央テレビ取締役報道制作局長 佐藤崇氏、NHK解説主幹 山崎登氏とコーディネーター東京大学大学院情報学環准教授 丹羽美之氏によるパネルディスカッションが行なわれ、浮かび上がった課題や教訓について議論を深めた。

研究報告会、贈呈式の参加者は、放送関係者、研究者などのべ150名で、報告後の質疑応答では活発な意見交換が行われた。

イ 平成23年度助成事業の実施報告

平成25年10月～11月に開催した其々の審査委員会で、平成23年度に助成した技術開発15件、人文社会・文化36件の実施報告（成果報告・25年6月末締切）について、一件ずつ内容の評価を行った。

(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア 第39回放送文化基金賞

平成24年度中に放送された、優れた放送番組（番組部門）と、主にその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ（個人・グループ部門）を対象に、平成25年4月～5月に開かれた各部門、各分野の専門委員会と審査委員会を経て理事会で、合わせて25件を決定した。

（受賞一覧 資料2）

応募・推薦および表彰結果は次のとおりである。

部 門	領 域	応募・推薦数	表彰数	備 考
番組部門	テレビドキュメンタリー	80	5	本賞1、優秀賞1、番組賞3
	テレビドラマ	52	4	本賞1、優秀賞1、番組賞2
	テレビエンターテインメント	65	3	本賞1、優秀賞1、番組賞1
	ラジオ	38	3	本賞1、優秀賞1、番組賞1
	個別分野	—	5	番組部門受賞作品から選定
個人・グループ部門	放送文化	10	2	—
	放送技術	6	3	—
合 計		251	25	

番組部門の本賞の賞金は80万円、優秀賞は40万円、各番組賞は、20万円
個別分野賞は10万円。個人・グループ部門の賞金は30万円。

本賞を受賞したのは、テレビドキュメンタリー番組では、『NHKスペシャル メルトダウン File.03 原子炉“冷却”の死角』（NHK）、テレビドラマ番組では、『リーガル・ハイ』（フジテレビジョン、共同テレビジョン）、テレビエンターテインメント番組では、『NHKスペシャル 釜石の“奇跡” いのちを守る特別授業』（NHK）、ラジオ番組では、『よみがえる話芸 節談説教』（東海ラジオ放送）である。

個人・グループ部門では、放送文化で2件の制作グループやプロジェクト、放送技術で3件の開発グループが受賞した。

基金賞の贈呈式は、6月21日に千代田放送会館で、その後、懇親パーティーをホテル・ルポール麹町で行った。

イ 他の賞への参加

アジア太平洋放送連合（ABU）番組コンクール、第40回日本賞教育コ

ンテンツ国際コンクール、創作ドラマ大賞に参加した。

- ・このうち、A B U番組コンクールでは、ラジオとテレビのドラマ番組の、『Lullaby Jock』Radio New Zealand (RNZ) /ニュージーランド、『Golden Time』韓国文化放送 (MBC) /韓国にそれぞれ賞を贈呈した。A B U賞授賞式は平成25年10月28日にデウハノイホテル (ベトナム) で行われ、各分野の15番組と、技術分野の個人・グループなどに賞が贈られた。

- ・日本賞は、平成25年10月24日授賞式が行なわれ「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『通学路は大自然』(スリランカ放送協会/スリランカ、アトラ・ディサナヤカ氏) に対して放送文化基金賞を贈呈した。

なお、第39回(平成24年)の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞したジョイニングハンズの『自分を信じて』(ネパール) は、番組として完成し、今回の日本賞コンクール開催期間中に上映会が行われた。

- ・日本放送作家協会が主催する創作ドラマ大賞について、第38回創作テレビドラマ大賞の贈呈式は平成25年11月7日に行われ、大賞に選ばれた『佐知とマユ』(足立 紳 氏) に賞金50万円を贈呈した。

第42回創作ラジオドラマ大賞の贈呈式は平成26年3月20日に行われたが、今回大賞は「該当作なし」だった。

(表彰結果 資料3)

(3) 国際交流活動

A B U (アジア太平洋放送連合) の第50回年次総会が、平成25年10月28日～29日までベトナム・ハノイで開かれ、54の国、地域の155加盟メンバーから700人余りが参加した。基金からは崎元専務理事が出席した。

今回は、「デジタル時代の放送の発展」に関する議論が重要なテーマとなり、『様々なメディア媒体が生まれている中で、放送ではどのような取り組みが行われているのか』について活発な議論が行われた。また、総会では、新しいA B Uの会長に韓国K B Sの吉桓永 (ギル・ファニョン) 社長が選出された。

(4) 制作者フォーラムの開催

NHK、民放、制作プロダクションなど、組織の枠を超えた制作者同士

の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的として、平成25年度は2地区で現地実行委員会と共催した。

内容は、ミニ番組コンテストと実行委員会の企画によるシンポジウムや講演会が行われた。

○北日本制作者フォーラム in もりおか(北海道・東北地区)

＜北海道、東北の民放とNHK、計40局＞

日 時 平成25年11月8日(金)

場 所 : いわて県民情報交流センター アイーナ／盛岡市

参加者 約120名

○九州放送映像祭&制作者フォーラム(九州・沖縄地区)

＜九州、沖縄の民放とNHK、計35局＞

日 時 平成25年12月1日(土)

場 所 : NHK福岡放送局ほかビジョンホール／福岡市

参加者 約70名

(5) 設立40周年記念事業

事業システムのweb化については、平成25年9月助成事業、平成26年3月放送文化基金賞のweb申込等のシステムが完成し夫々運用に入った。

なお、その他の記念事業(若手研究者の助成奨励、記念研究報告会の実施、記念特集号の刊行)については、各該当項目に記載した。

(6) 定期刊行物の刊行等

平成25年9月に放送文化基金賞の受賞者インタビューなどを掲載した広報誌「放送文化基金報(HBF)」No.79を刊行。平成26年4月助成対象プロジェクトの研究内容の紹介と40周年を迎えるに当たっての理事長挨拶などを中心としたNo.80を40周年記念特集号(I)として刊行した。

(7) ホームページの運営

事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開に努めた。また、来年度に予定しているホームページの全面リニューアルに向けて準備を開始した。

<日本語版内容>

助成決定および成果報告／助成対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧／助成・放送文化基金賞WEB 申込等システム／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／広報印刷物の紹介／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿 等

アクセス件数 39,819 件（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

<英語版内容>

助成の募集案内、日本賞・ABU賞への参加について 等

アクセス件数 3,555 件（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

（８）個人情報の保護

基金の保有する個人情報保護のため、安全管理対策や問い合わせ窓口の設置などを定めた個人情報保護方針および安全管理規程を策定し、個人情報保護方針をホームページで公開している。

（９）資産運用検討委員会

ア 目 的

当基金は、「資産運用方針」に基づき資産運用を行っているが、資産運用の専門性をより一層向上させるため、部外の専門家を含めた諮問的機関として「資産運用検討委員会」を平成 25 年 9 月と平成 26 年 1 月の 2 回開催した。

イ 委 員

青木 昭憲	（大和住銀投信投資顧問(株)法人部長）
柿沼 点	（大和住銀投信投資顧問(株)チーフエコノミスト）
森 幸嗣	（大和住銀投信投資顧問(株)債券運用グループリーダー）
松原 克美	（放送文化基金会計顧問・公認会計士）
清水 孝雄	（放送文化基金監事・TBS 社友）
根本 佳則	（放送文化基金監事・NHK経営企画局長）

（幹事）

崎元 利樹 （放送文化基金専務理事）

ウ 主なテーマ

- ・国内外の経済政策や金利・為替等の見通し
- ・債券市場の分析・機関投資家の動向等と資産運用ならびに保有債券の分析

Ⅱ 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項

ア 役員・監事の選任等

理事・監事については平成25年6月13日の第7回評議員会で、任期満了につき、次のとおり選任した。

理事

塩野 宏 氏	(東京大学名誉教授)	再任
末松 安晴 氏	(高柳記念財団理事長)	再任
藤井 宏昭 氏	(国際交流基金顧問)	再任
箕浦 康子 氏	(お茶の水女子大学名誉教授)	新任
大石 芳野 氏	(写真家、日本大学客員教授)	新任
崎元 利樹 氏	(前NHK大阪放送局長)	新任

監事

清水 孝雄 氏	(TBS社友)	新任
根本 佳則 氏	(日本放送協会 経営企画局長)	再任

(任期は、平成25年6月13日から27年6月の定時評議員会まで)

なお、櫻井 孝顕 理事、五代 利矢子 理事、谷村 啓 理事
箕浦 康子 監事は退任した。

イ 評議員の選任等

(ア) 第7回評議員会(平成25年6月13日)において、新たに2人の評議員を選任した。

マーシャ・クラッカワー 氏(聖心女子大学教授)

鈴木 幸一 氏(インターネットイニシアティブ代表取締役)

(任期 平成25年6月13日から29年6月の定時評議員会まで)

(イ) 第9回評議員会(平成26年3月14日)において、2人の評議員の退任の報告があった。

松本 正之 氏(前 日本放送協会会長)

井原 理代 氏(前 日本放送協会経営委員会委員)

(退任日 平成26年3月13日)

ウ 審査委員の委嘱

第14回理事会(平成25年7月5日)において、審査委員会委員を次のとおり新たに委嘱した。

助成審査委員会委員（人文社会・文化）

下川 雅也 氏（日本放送協会理事）

（任期 前任者の残任期間となるため、平成25年7月5日
から26年3月31日まで）

なお、新山賢治委員は、平成25年7月4日退任

エ 第17回理事会（平成26年2月14日）において、審査委員会委員
を次のとおり新たに委嘱した。

助成技術開発審査委員会

委員長 羽鳥 光俊 氏（東京大学名誉教授）

今井 秀樹 氏（中央大学教授）

久保田啓一 氏（日本放送協会専務理事・技師長）

白井 克彦 氏（放送大学学園理事長）

豊中 俊榮 氏（TBSテレビ常務取締役技師長）

助成人文社会・文化審査委員会

委員長 濱田 純一 氏（東京大学総長）

安藤 裕康 氏（国際交流基金理事長）

黒崎 政男 氏（東京女子大学教授）

佐藤 卓己 氏（京都大学大学院准教授）

下川 雅也 氏（日本放送協会理事）

白石 さや 氏（岡崎女子大学教授）

放送文化基金賞審査委員会

委員長 吉田 喜重 氏（映画監督）

青木 隆典 氏（日本民間放送連盟事務局長）

河合祥一郎 氏（東京大学大学院教授）

木田 幸紀 氏（日本放送協会理事）

金田一秀穂 氏（杏林大学教授）

河野 尚行 氏（放送批評家） 新任

長谷川豊明 氏（元日本放送協会専務理事・技師長）

堀川とんこう 氏（演出家）

（任期は、いずれも平成26年4月1日から平成28年3月31日まで）

以上の結果、平成25年3月31日現在の役員、評議員、審査委員は、
資料のとおりである。（役員、評議員、審査委員一覧 資料4）

（2）理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

開催年月日	主 な 議 案
平成 25. 5. 30 (第 12 回)	・ 平成24年度事業報告および決算について ・ 評議員候補者の推薦について ・ 任期満了に伴う役員候補者の推薦について ・ 第39回「放送文化基金賞」表彰対象について ・ 平成25年度助成要項について ・ 休職・休業者貸付規程について
平成 25. 6. 13 (第 13 回)	・ 理事長及び専務理事の選定について
平成 25. 7. 5 (第 14 回)	・ 審査委員の委嘱について ・ 技術開発審査委員会専門委員の委嘱について ・ 事務局職員の退職について
平成 25. 10. 4 (第 15 回)	・ 第8回評議員会の開催について ・ 育児休業・介護休業規程の改正について ・ 平成25年度事業活動収支見込みについて ・ 内閣府公益認定等委員会立ち入り検査について
平成 25. 12. 5 (第 16 回)	・ 平成26年度予算編成の考え方について ・ 第40回放送文化基金賞「表彰実施細則」について ・ 職員賃金規程、退職規程、年金規程の改正等について
平成 26. 2. 14 (第 17 回)	・ 第9回、10回評議員会の開催について ・ 評議員の交代について ・ 平成25年度助成の実施について ・ 平成26年度事業計画と収支予算の編成について ・ 平成26年度資産運用計画について ・ 審査委員の委嘱について ・ ロゴマークの変更について

イ 評議員会

開催年月日	主 な 議 事
平成 25. 6. 13 (第 7 回)	・平成 24 年度事業報告および決算について ・第 39 回「放送文化基金賞」選考結果 ・評議員の選任について ・任期満了に伴う役員の選任について
平成 25. 12. 5 (第 8 回)	・平成 25 年度収支見通しおよび平成 26 年度予算編成方針について ・事業の執行状況について
平成 26. 3. 14 (第 9 回)	・平成 26 年度事業計画と収支予算の編成について ・平成 25 年度助成の実施について ・評議員の退任について ・事業の執行状況について ・新しいロゴマークについて

Ⅲ 付属明細書

公益財団法人 放送文化基金

平成 25 年度

助 成

技術開発

技術開発	テーマ	申請者	助成金額 (万円)
	有機光電変換膜の量子効率改善に関する研究	近畿大学産業理工学部 教授 江上 典文	210
	スピン偏極走査トンネル顕微鏡によるナノ磁性体の磁区構造の操作・制御	東京大学物性研究所 助教 宮町 俊生	115
	放送素材信号の水中光伝送に関する技術開発 (その2)	工学院大学工学部 教授 前田 幹夫	250
	放送波ホワイトスペース通信への応用を目指す高周波可変フィルタとデジタル補償法の研究開発	千葉大学大学院工学研究科 准教授 安 昌俊	180
	高精細映像での立体感知覚におけるオクルージョン領域に着目した自然な立体提示法に関する研究	名古屋大学大学院情報科学研究科 准教授 工藤 博章	185
	柔軟なカメラ配置における自由視点合成の研究	公益財団法人 名古屋産業科学研究所 上席研究員 谷本 正幸	180
	触覚情報ブロードキャストのための触感テクスチャ遠隔計測法の確立	熊本大学大学院自然科学研究科 助教 中妻 啓	240
	失語症者向けニュース字幕要約手法に関する研究開発	千葉大学大学院融合科学研究科 教授 黒岩 眞吾	245
	テレビCMへ付与された字幕のアイトラッキングによる評価	追手門学院大学国際教養学部 准教授 福島 孝博	215
	合理的な平面型高臨場感システム実現のための主観評価実験と画像処理への応用	成蹊大学理工学部 教授 杉山 賢二	250
	動画コンテンツに対応した gaze contingent window の開発・評価	東京工業大学大学院理工学研究科 准教授 蒔田 貴子	180
	インテグラルフォトグラフィにおける静・動的な調節応答特性の研究	島根大学大学院総合理工学研究科 教授 矢野 澄男	250
計 12 件			2,500 万円

人文社会・文化

人文社会・文化	効果的な原子力発電所の事故対応に貢献する「原発事故対応モデル」の構築	東京大学生産技術研究所 助教 沼田 宗純	150
	巨大災害とコミュニティラジオ放送	情報科学芸術大学院大学 教授・産業文化研究センター長 金山 智子	95
	被災地に流れた音楽——東日本大震災における臨時災害放送局を中心に	関西大学社会学部 教授 小川 博司	90
	多文化主義諸国の放送法と放送政策：日本への示唆を求めて	龍谷大学国際文化学部 准教授 八幡 耕一	40
	放送番組への肖像の「写り込み」に関する研究	北海道大学大学院法学研究科 博士後期課程 3 年 橋谷 俊	15
	大学における放送実践教育がもたらす成果に関する調査研究	東海大学文学部広報メディア学科メディアプロジェクト 代表 水島 久光 (東海大学 教授)	100

Grants

テーマ	申請者	助成金額 (万円)
NHK の農事番組における「RFD (Radio Farm Director)」と「RFD 通信員」の軌跡とその行方	「農事番組」研究会 代表 船戸 修一 (静岡文化芸術大学 講師)	90
舞台芸術の放送化についての研究	三重大学人文学部 准教授 田中 綾乃	45
テレビのソフトニュースが若年層の政治的態度に与える影響の研究	メディア・投票行動研究会 代表 渡辺 久哲 (上智大学 教授)	80
政治分断要因か? 熟議か? : アメリカのテレビにおける政治評論家	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授 渡辺 将人	80
昭和 20 ~ 30 年代前半の民放草創期放送音源等放送資料の収集保存とデジタルアーカイブ化	メディアと古典芸能研究会 代表 飯塚 恵理人 (信山女学園大学 教授)	80
中国少数民族の歴史的映像のアーカイブ化研究	民族映像資料保存研究会 代表幹事 羅 朝東 (中国チベット自治区ラジオ映画テレビ総局 副局長)	100
時代劇アーカイブズの収集・整理・保存と資料論的研究	時代考証学会 会長 大石 学 (東京学芸大学 教授)	120
「地方の時代」映像祭応募作品の保存およびデータ整理	「地方の時代」映像祭実行委員会 プロデューサー 市村 元	175
脚本を活用したドラマリテラシー授業および放送データベース試作	一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム 代表理事 山田 太一	200
放送メディアにおける遠藤周作	福岡共同公文書館 専門員 池田 静香	50
TV ドキュメンタリスト木村栄文の軌跡 2 一映像で描く木村栄文一	西南学院大学 & RKB 毎日放送 共同「木村栄文研究」 研究代表者 田村 元彦 (西南学院大学 准教授)	120
テレビマンユニオンの思想と映像表現——表現手法の変革、共有、継承に関する研究	「思想としてのテレビ」研究会 代表 松井 茂 (東京藝術大学芸術情報センター 助教)	120
地域活性化および災害時活用を目指したエリアウンセグ放送に関する研究	石巻専修大学経営学部 准教授 舩井 道晴	100
日韓中テレビ制作者フォーラム in 横浜 (第 14 回大会)	日韓中テレビ制作者フォーラム in 横浜 日本組織委員長 今野 勉 (放送人の会 会長)	140
国際共同製作のための企画提案会議「Tokyo Docs 2014」の開催	Tokyo Docs 実行委員会 委員長 天城 朝彦 (東京 TV フォーラム 理事長)	150
米国 NPO メディア CIR の挑戦～次世代の放送ジャーナリズムを考察する	早稲田大学政治経済学術院 教授 高橋 恭子	110
世界公共放送研究者会議 (RIPE) 東京大会への海外研究者招聘	RIPE 東京大会研究部会実行委員会 委員長 山本 信人 (慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所 所長)	100
JAMCO 国際フォーラム：日本のテレビ番組のアジア・アフリカでの理解の実態	一般財団法人 放送番組国際交流センター 専務理事 村神 昭	80
将来を担う青少年への放送文化啓発～出前授業による放送体験～	公益財団法人 放送番組センター 常務理事 松館 晃	105
PMPC2014 国際セミナー「日本の地デジ移行における対策事例と現状」の開催	一般財団法人 NHK インターナショナル 理事長 原田 誠	130
ABU デジスタティーンズの参加局拡大とデジタル映像の質的向上	アジア太平洋放送連合 (ABU) 番組局長 紅粉 達広	120
伝統芸能「文楽」—地方公演 2014—	公益財団法人 文楽協会 理事長 山口 昌紀	100
研修プロジェクト：コミュニティ・メディアにおける女性の能力向上	CCD バングラデシュ 所長 Mourtoza Golam	60
HBFI-ABU 地域ワークショップ：災害の軽減と対策における放送メディアの役割	アジア太平洋放送連合 (ABU) 技術局長 Punchihewa Amal	100

計 30 件 3,045 万円

合計 42 件 5,545 万円

第39回「放送文化基金賞」受賞一覧

(資料2)

部 門		賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績
番組部門	テレビドキュメンタリー番組	本賞 (80万円)	NHK	NHKスペシャル メルtdown File.3 原子炉“冷却”の死角
		優秀賞 (40万円)	NHK広島放送局	NHKスペシャル 黒い雨 ～活かされなかった被爆者調査～
		(20万円)	NHK仙台放送局、NHK盛岡放送局	NHKスペシャル シリーズ東日本大震災 追跡 復興予算19兆円
		テレビドキュメンタリー番組賞 (20万円)	NHK福岡放送局、NHK熊本放送局	ETV特集 原田正純 水俣 未来への遺産
		(20万円)	NHK	NHKスペシャル 世界初撮影！深海の超巨大イカ
	テレビドラマ番組	本賞 (80万円)	フジテレビジョン、共同テレビジョン	リーガル・ハイ
		優秀賞 (40万円)	NHK	テレビ60年記念ドラマ メイドインジャパン
		(20万円)	フジテレビジョン	最高の離婚
		テレビドラマ番組賞 (20万円)	WOWOW	連続ドラマW ヒトリシズカ
	テレビエンターテインメント番組	本賞 (80万円)	NHK	NHKスペシャル 釜石の“奇跡” いのちを守る特別授業
		優秀賞 (40万円)	テレビ朝日	あの名曲を方言で熱唱！ 新春全日本なまりうたトーナメント
		テレビエンターテインメント番組賞 (20万円)	宮崎放送	西米良ご長寿御一行様 平成のお江戸見物ツアー
	ラジオ番組	本賞 (80万円)	東海ラジオ放送	よみがえる話芸 節談説教
		優秀賞 (40万円)	朝日放送	日曜スペシャル 調律師という芸術家 最高の音楽を作る究極のピアノ調律
		ラジオ番組賞 (20万円)	北海道放送	凍えた部屋 ～姉妹の“孤立死”が問うもの～
	個別分野	演技賞 (10万円)	瑛太	「最高の離婚」
		演技賞 (10万円)	尾野真千子	「最高の離婚」
		脚本賞 (10万円)	古沢良太	「リーガル・ハイ」
		制作賞 (10万円)	秋田和典	「よみがえる話芸 節談説教」
		特別賞	原田正純	「原田正純 水俣 未来への遺産」
個人・グループ部門	放送文化	(30万円)	NHK「宇宙の渚」制作グループ	貴重な映像で地球と宇宙の繋がりを描き出し、新たな地球観・宇宙観を視聴者に提示した
		(30万円)	NHK 東日本大震災 証言プロジェクト	東日本大震災に遭遇した人々の証言を記録、放送・WEB・書籍等、幅広く視聴・検索可能な形態で公開した
	放送技術	(30万円)	位相調光制御対応LED駆動装置開発グループ 代表 小寺 勝馬 (日本テレビ放送網)	位相調光制御対応LED駆動装置の開発およびフラッドライトの実用化
		(30万円)	SDカードスクランブラー開発グループ 代表 保谷 和宏 (フジテレビジョン)	SDカードスクランブラーの開発
		(30万円)	ツインズカム開発グループ 代表 沢田 智 (NHK)	ツインズカムの開発

*番組部門の各賞と個人・グループ部門は、受付順による。

(資料 3)

他の賞への参加結果について

1. 2013 年 A B U 番組コンクール

<参加:テレビ 7 部門…31 機関/107 番組 ラジオ 6 部門…62 機関/159 番組>

※ 放送文化基金は、ラジオとテレビのドラマ部門のスポンサー

表 彰 日	平成 25 年 10 月 28 日
場 所	ベトナム・ハノイ
受賞作品	○ラジオ部門 ドラマ番組 (賞金 2,000 ドル) 『Lullaby Jock』(RNZ/ニュージーランド) ○テレビ部門 ドラマ番組 (賞金 2,000 ドル) 『Golden Time』(MBC/韓国)

2. 第 40 回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

<参加:208 機関のうち企画部門への参加は 23 機関、32 企画>

表 彰 日	平成 25 年 10 月 24 日
場 所	NHK 放送センター 1 階 101 スタジオ
受賞企画	『通学路は大自然』 (賞金 8,000 ドル) アトラ・ディサナヤカ氏 (スリランカ放送協会/スリランカ)

※ 企画は番組化し、スリランカ放送協会で放送される予定。また、平成 26 年開催の「日本賞」コンクール開催期間中に上映される予定

3-1. 第 38 回創作テレビドラマ大賞

<応募総数 1,012 編から、大賞 1 編、佳作 2 編が決定>

表 彰 日	平成 25 年 11 月 7 日
場 所	NHK 青山荘
大賞作品	『佐知とマユ』 足立 紳

3-2. 第 42 回創作ラジオドラマ大賞

<応募総数 273 編から、佳作 3 編が決定>

表 彰 日	平成 26 年 3 月 20 日
場 所	東越伯鷹ビル地下 1 F
大賞作品	該当なし

公益財団法人 放送文化基金
役員、評議員、審査委員 一覧

(資料4)

○ 役 員

理 事 長(非常勤)	塩 野 宏	東京大学名誉教授
理 事(非常勤)	末 松 安 晴	高柳記念財団理事長
理 事(非常勤)	藤 井 宏 昭	国際交流基金顧問
理 事(非常勤)	箕 浦 康 子	お茶の水女子大学名誉教授
理 事(非常勤)	大 石 芳 野	写真家、日本大学客員教授
専務理事(常 勤)	崎 元 利 樹	前日本放送協会大阪放送局長
監 事(非常勤)	清 水 孝 雄	TBS社友
監 事(非常勤)	根 本 佳 則	日本放送協会経営企画局長

○ 評 議 員

青 木 保	国立新美術館館長
池 辺 晋 一 郎	作曲家
石 田 研 一	日本放送協会専務理事
小 田 島 雄 志	東京大学名誉教授
音 好 宏	上智大学教授
加 藤 剛	俳優
木 村 信 哉	日本民間放送連盟専務理事
マーシャ・クラッカー	聖心女子大学教授
今 野 勉	演出家、脚本家
鈴 木 幸 一	インターネットイニシアティブ代表取締役会長CEO
高 島 肇 久	日本国際放送特別専門委員
田 中 優 子	法政大学教授
遠 山 敦 子	トヨタ財団理事長
長 尾 真	前国立国会図書館長
中 村 桂 子	JT生命誌研究館館長
西 條 温	日本ケーブルテレビ連盟理事長
羽 鳥 光 俊	東京大学名誉教授
濱 田 純 一	東京大学総長
福 地 茂 雄	新国立劇場理事長
藤 村 志 保	俳優
向 井 千 秋	宇宙航空研究開発機構特任参与

○ 助成 審査委員

技 術 開 発	委員長／	羽 鳥 光 俊	東京大学名誉教授
	委 員／	今 井 秀 樹	中央大学教授
		久保田 啓一	日本放送協会理事・技師長
		白 井 克 彦	放送大学学園理事長
		豊 中 俊 榮	TBSテレビ常務取締役技師長

人 文 社 会 ・ 文 化	委員長／	濱 田 純 一	東京大学総長
	委 員／	安 藤 裕 康	国際交流基金理事長
		黒 崎 政 男	東京女子大学教授
		佐 藤 卓 己	京都大学大学院准教授
		下 川 雅 也	日本放送協会理事
		白 石 さ や	東京大学名誉教授

○ 放送文化基金賞 審査委員

委員長／	小 田 島 雄 志	東京大学名誉教授
委 員／	青 木 隆 典	日本民間放送連盟事務局長
	河 合 祥 一 郎	東京大学大学院教授
	木 田 幸 紀	日本放送協会理事
	金 田 一 秀 穂	杏林大学教授
	長 谷 川 豊 明	元日本放送協会専務理事・技師長
	堀 川 と ん こ う	演出家
	吉 田 喜 重	映画監督

(平成26年3月31日)